

## 第2回 夕張市美術館の今後の在り方検討委員会 意見概要

2012.6.15（金）15：00－17：00 市内公共施設

### 教育長あいさつ

5月29日に第1回目の検討委員会を開催、皆さんのご意見を聴かせていただくにあたって、新しい夕張の今後に向け、美術館の問題をどうレイアウトしながら前に進めていくのが良いのかと考えさせられた委員会でありました。今日は実際に収蔵作品をご覧いただきながらまたご議論をお願いしたいと思います。6月6日に行政常任委員会があり、検討委員会についても報告させていただきました。会議の公開や傍聴についてなど要望がありましたが、まずはじっくり委員の方と話をしていきたいことや、場所や時間が不定期的な開催であることなどもあり、会議の公開等は難しいことをご理解願ったところです。最終日には報道関係も入る予定ですので傍聴も問題ないことかなと思うところです。

5月29日から3日間、ふれあいトークがあり、美術館については、今こういう状況にあることを説明しました。ご意見を聴く中で、当面取り組むべきこと、また中・長期的に取り組むべきことを考えながら前に進めていかなくてはと考えております。財政再生計画から行くと、15年後の人口も6,700人程度との推計がでています。そんなことも含め今日は実際収蔵品を見ていただきながらご議論いただければと思います。

### 意見交換（概要）

#### 美術館の再建について

- ・中山峠のところにある美術館の関係者が夕張にも興味を持っているようで金持ちに意見を聞くなり任せたらどうだという意見を聞いた。→破たん当時は企業の大きな支援もあったが、最近では体育施設のネーミングライツなども苦戦している状況。どれだけ企業のメリットになるかによるところだがお金だけをだすというのは厳しいと思う。
- ・新たに建物を建てるというのはそれこそ大スポンサーでもない無理な話。
- ・展示できる空間がどれだけあるか。どういう空間がどこにどれだけあるか、を探ることが必要と感じた。出来るなら専用の建物がほしいところだが、それは厳しい状況なので、まずできる範囲内の施設でどう展示していくかの方向を考えたい。
- ・閉校した学校を直したりして使用するのももう無理がある。
- ・すでに閉校になった学校も数校、全館ではなくても稼働しているところがある。その一部を借りて展示スペースをつくるのが可能かどうか。それくらいしかない。
- ・まず、ハコモノをどうするか。あちこちにたくさんあるがどれも古い。
- ・市内のホテルで以前写真展示をしていたりしたが、そういった箇所を使用させてもらえるのであれば大分悩みも解消されるかなとも思うが。→この問題が起きて間もない時に一度そのような話もしたが、ホテル営業のコンセプト、貸出の際のセキュリティの問題もあるかと思うが、難しいようだ。
- ・市内で空間を探すといっても限られてくるとは思う。
- ・建物の再建は必要か。建設や維持管理にかかる財源の問題。財団の助成などは適用にな

らないだろうか。→市民の財産である作品が多くあることから、今後の美術館あるいは美術館機能をどうするか、この間我々も模索はしてきた。前回資料にもあるが、運営にかかる経費は2千万円はかかる。それが毎年かかってくる。美術館は何千円もとれる場所ではない。となると美術館の建物を持ち、今すぐその予算確保をするというのは難しいと思う。その中でどこを目指すかとなった場合、長期的には専門の展示スペースを目指しつつ、まずは先ほどから出ている「人のいる、ギャラリー的なスペース」を確保し展示していくことかと思う。

- ・今までの美術館の在り方から方向転換して、お金をかけず、今ある施設を活用するという新たな美術館の体制をつくる必要がある。
- ・市内のバス会社の2階にもスペースがあり、市民に向けた公共的・文化的な内容で使用してもらうのであれば協力するとも言ってくれていた。
- ・専用施設は無理でも美術館機能は残したいという市民の熱い気持ちを整理して活動し、続けることで必要性の裏付けとしていくという考えを持っていく。
- ・現在稼働している閉校した校舎は、幌南小学校と幌南中学校。施設の一教室を借りるなどして展示するのは考えられないことではないが、どちらもたくさんの人が常時いるわけではない。
- ・市庁舎には現在一階に銀行が入っているが、何年か後にはまだスペースは空いてくるだろう。長期的にみれば、市庁舎の活用を考えた場合、美術品の展示スペースも考えられるのでは。
- ・市内のバス会社も含め検討できる施設はあるのでは。
- ・以前、市内のバス会社からは社会教育関係団体の例会などにも無料で貸すとんでもらったこともある。
- ・若菜であれば、市内では比較的人が集まりやすい場所ではある。
- ・夕張中学校では玄関正面のガラスケース、職員室側の壁、給食調理場への壁などが可能性としてはあるが、学校は、故意ではなく、ぶつかってガラスが割れることなどを心配している。小学校はぜひ展示したいと言っていた。岩見沢市のある小・中学校では校内に書などを多く展示しているが、学校は作品へのいたずらではなく、ぶつかってガラスが割れるなども数年に一度ある程度と聞いている。学校を始め、市内でこういった候補があるか見て回ることも必要か。

#### 収蔵作品の管理と活用について

- ・収蔵品の保管をしつつ展示しようというのが我々の課題。
- ・今、物づくりをしている人たちの展示場所とだぶるような展示方法といった意見が前回もでていた。文化祭などの展示機会と一緒に、空間は限られているが収蔵作品も展示することができるのでは。それをやりつつ他に数か所、小さくても良いので10点くらい並べられる壁が市内の施設にあるのかどうか。可能かどうかを別にしてまず抜き出して机上にあげる。不可能の中でも、多少の予算があればできるといった施設を抜き出していく。
- ・初めて作品を見たが、結構大きな作品が多い。前回、市内の展示できる箇所に点在させ

てはといった意見をだしたが、すべての作品を展示していくというのは難しそうに感じた。

・今日作品の様子を見て、管理も相当大変だろうと感じた。

・今一番大事なことは、少しずつでも文化祭や雪月花展の際に一緒に展示するなどして、地道な活動を認識させていくこと。

・国・道との三者会談では美術館の問題も含め議論したいと思っているが、おそらく回答はすぐに出るものではない。長期的な先を見て将来に渡ってこれらの作品を大切にしながら、なおかつそれだけの規模でも運営していけるということが見通せるようにしていければ、20年後にはまた別の考え方もでてくるのかと思う。

・収蔵作品は交互に出し合いながら20点くらいずつでも展示していくべきである。市民の関心度を高めていくことが必要。

・雪月花展は、展示会場を変えながら、破たん後も市民の力で続いている。一人ひとりのささやかな力が結集し大きな成果になっている。収蔵作品をどう生かすかを考えるときも、欲張らないで小さなスペースでできる展示を小さな力でやり続ける。その後にスポンサーなどがついてくるかもしれないが、まずは夕張に住む私たちが小さな力をだせるのか、だせないのか。毎月・毎年は無理でも何日間なら、何週間ならできるという、そんなささやかな力でも結集すればできていくことではないか。

・壁にかけずとも床にブロックなどを置いてその上に立てかけるだけでも見せられる。年に数回でも展示をしていけば、今の収蔵庫も作品が動くので、作品にとっても空気が動くのは保存上よいことである。数点の展示はいつでも可能。具体的にどうするかは今後の委員会で見えてくるのでは。

・お盆には帰省客も増えるので、8月に早速10点でも懐かしい絵を見せられないか。具体的にスケジュールを決めれば、美術館倒壊後初の収蔵品の公開も可能だと思う。

・とにかく市民の皆さんにまず見ていただく機会をどう作るか、できることから進めていけば小さな変化が大きな変化になり希望も持てるようになる。

・何事も積み重ねが大切。地道にやっていけば認めてくれる、結果はついてくるものと感じた。

・欲張るとお金もかかってしまうし人手も必要になる。まずはお金の前にアイデアだと思う。欲張らず一步一步。夕張だからできる「市民ベースの美術館」の考え方を持って、小さいけれど運営していくことで、またそれが起爆剤になって夕張に関心が集まるという形になるのでは。小さくても良いので美術作品とともに運営される美術館、美術小屋みたいな雰囲気、我々じゃないとできない運営をしていくというのも面白い方向性かと感じた。

・雪月花展や文化祭などの自分たちの展示会でも会場すべてを使っているわけではない。その時に所蔵作品の書や絵を同時に展示していく、そして市民に見てもらうことが非常に大事と感じた。

・夕張は財政難だから絵も売ってしまえば良いといった声も聞いたが、寄贈した人や描いた人の心を考えるととんでもないことだ。美術館は建てられないまでも、少しずつ展示していきたい。

## その他

・ボランティアには限度がある。最低限かかる予算は夕張の文化振興のために市で何とかしてもらえないものか→再生計画上、美術館は廃止で指定管理に、という基本的内容はかわらない。しかし、指定管理者が今後見つかるかといえば難しい。他市町村をみても大きなところは別だが、採算度外視で直営がほとんど。今後、運営上、人が必要であれば雇用形態にもよるがそれを要求していくことに問題があるとは思わない。どういう形での運営がどれだけ市民に還元できるかが問いかけるのでそれに応えられるかどうか重要。

・大きな企業の支援などはあてにできないものか。→民間の企業でただお金をだすということはない。我々がこれまでどうやってきたか、地道な活動を続けた先にそういった支援があることは考えられないことではないかもしれないが、そう簡単なものではない。まずは自分たちでこの状況でできることをやっていくこと、必要な予算は少しずつでも要求していった、また次の年につなげるということが必要。

・市内の展示可能な場所が小さくてもあれば、運ぶのも展示もまずは我々がやり、最初は予算をかけられなくても、続けていく中で会場を長く借りたり展示のための照明などに少し予算をとれないかといった話になっていくのでは。

・やはり短期・中期・長期のスパンの中できっちりと方向性をだすことが大切。何でもお願いするばかりではなく市民の財産を市民レベルで考える必要がある。

・始まりは小さなことでも継続していくことが大切。

・地道な繰り返し。継続は力になる。

・今回はマスコミは入っていない。委員の皆さんは建設的・創作的な意見をだしていると思うが、彼らの評価はどうなのか。→一回目と最後の委員会は公開し、それ以外は意見を出しづらくなっても困るので非公開で予定している。

### 途中経過の確認として～

○美術館の建物については、再建は難しいが美術館機能は残すべき。

○収蔵作品は数点ずつでも、常に人がいて活用されている施設でスペースを探し展示すべき。

○中・長期の展望を持ちつつ、まずはできることから始めるべき。

※ご意見の内容は大きな「くくり（網掛けしたタイトル別）」で分けてましたが、ご意見の内容によってはいくつかのくりに連動したものもあります。ご了承ください。

●第3回検討委員会日程：平成24年6月27日（水）午前9時30分 文化スポーツセンター  
→市内数施設を視察後、意見交換